

県民向けパンフレット(2冊)の普及活動の検討(討議案)

1. 現状と課題

- 長良川河口堰最適運用検討委員会は、県民向けパンフレットを2冊作成した
 - 1) 「166キロの清流を取り戻すために」(2016年7月)
 - 2) 「新しいフルプランへの提案 2030年 尾張・名古屋の新しい水の使い方 水は賢く使う時代が来た！」(2020年3月)
- しかし、作成したパンフレットの県民に対する普及は進んでない。
- そこで、2冊のパンフレットの普及のための活動が必要である。

2. 普及活動の方法

(1) 普及活動対象の優先順位付

- 普及活動を行う対象について、様々なカテゴリーがある。限られたリソースを、どのカテゴリーの人々に対して、委員会の検討成果を広め、関心を拡大すべきか。
 - 1) 開門調査に係る意思決定に関わる人々
 - 2) 生物多様性を人々に伝える役割を果たすメディア
 - ①マスメディア
 - ②専門誌などの自然関連のメディア
 - ③インターネットメディア
 - 3) 長良川河口堰の開門調査に関心がある人々
 - 4) 生物多様性の保全に関心のある人々
 - ①自然保護団体など、生物多様性について関心のある人々
 - ②具体的な場所において、自然環境の保全活動をしている人々
 - ③小中高校や大学の生物部など、教育現場で生物多様性に関心を持っている人々
 - 5) 県民
 - ①年齢別カテゴリー(年齢による生活パターンの違い、関心の向け方の違い)
 - ②地域的なカテゴリー(地域による違い、関心の向け方の違い)

(2) 普及のための方法

- 普及活動の対象カテゴリーについて、どのような方法で普及活動を行っていくべきか。
 - ①意見交換会、②出前講座、③公開講座、④長良川河口堰最適運用検討委員会の公開など